

次のうち、部分強化効果に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 味覚刺激と吐き気の連合は形成されやすい一方、光と吐き気の連合は形成されにくいというように刺激と反応の間で生得的に選択的關係があること。
2. 刺激Aに類似した刺激Bに般化が生じている場合に、刺激Aのみに選択的に無条件刺激を伴わせる手続きを繰り返すと、刺激Aのみに条件反応が生じるようになること。
3. たとえばベルの音と餌を対提示して、ベルの音に対して唾液が出るように犬を条件づけた後、ベルの音と光を対提示する手続きを繰り返すと、光に対して条件反応が形成されること。
4. オペラント条件づけにおいて、特定の望ましい反応にだけ強化を伴わせると、その反応の生起率が上昇し、他の反応の生起率が減少すること。
5. オペラント条件づけを行う際に、反応に対して必ず強化を与えるよりも、時々強化を与える方が、成立した反応が消去されにくいこと。

正答：5

社会福祉の各分野における専門職に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 福祉活動専門員は、ボランティア活動の推進や地域ネットワーク作りなどに関する活動を行っており、福祉事務所に配置される。
2. 家庭支援専門相談員は、地域の子育て家庭からの相談に対応する専門職であり、保育所や児童館に配置される。
3. 母子・父子自立支援員は、配偶者のない者で現に児童を扶養しているものに対し、その自立に必要な情報提供などを行う専門職であり、原則として児童相談所に配置される。
4. 主任介護支援専門員は、事業所・職種間の連携調整や、支援困難事例を抱える介護支援専門員への適切な指導・助言などを行う専門職であり、地域包括支援センターに配置される。
5. 障害者総合支援法における相談支援専門員は、市町村の障害者福祉に関する業務への支援などを行う専門職であり、都道府県の身体障害者更生相談所などに配置される。

正答：4

リーダーシップの理論に関する次の記述のうち下線部分が妥当なのはどれか。

1. 三隅二不二は、リーダーシップの機能を課題達成機能と集団維持機能の二つに分類し、両者を高水準で達成する型のリーダーシップについて、最も高い集団生産性を生み出すが、メンバーの意欲・満足度は最も低いことを明らかにした。
2. ハーシーとブランチャードは、メンバーの成熟度によってリーダーシップは変化するとし、非常に成熟度の高い段階では、リーダーは介入せずに信頼して任せる委譲的リーダーシップが最も効果的であることを明らかにした。
3. ハウスとデスラーは、メンバーが目標（ゴール）に達するためにはどのような道筋（パス）があるかを示すことが重要と考え、そのために、リーダーはメンバーに対し常に具体的で細かい指示を出すことが重要であることを明らかにした。
4. ブレイクとムートンは、リーダーの行動スタイルを人間に対する関心と業績に対する関心の2次元で捉え、リーダーシップが最高に発揮されるためには、リーダーが業績よりも人間に高い関心を払っている場合であることを明らかにした。
5. フィードラーは、リーダーの特性を LPC 得点（最も仕事をしたくない同僚への評価）によって表し、LPC 得点が低いリーダーは、いかなる集団状況でもリーダーシップを有効に発揮できることを明らかにした。

正答：2